

平成28年宇治田原町補正予算特別委員会

平成28年5月17日

午前10時30分開議

議事日程

日程第1 議案第34号 平成28年度宇治田原町国民健康保険特別会計（事業勘定）補正予算（第1号）

1. 出席委員

委員長	7番	垣内秋弘	委員
副委員長	10番	上林昌三	委員
	1番	稲石義一	委員
	2番	内田文夫	委員
	3番	山内実貴子	委員
	4番	安本修	委員
	6番	青山美義	委員
	8番	奥村房雄	委員
	9番	原田周一	委員
	11番	谷口重和	委員
	12番	田中修	委員

1. 欠席委員 5番 今西久美子 委員

1. 宇治田原町議会委員会条例第18条の規定により会議事件の説明のため出席を求めるものは次のとおりである。

町長	西谷信夫君
副町長	田中雅和君
総務部長	久野村觀光君
健康福祉部長	光嶋隆君
企画財政課長	奥谷明君
企画財政課課長補佐	矢野里志君
介護医療課長	青山公紀君

1. 職務のため出席した事務局職員は次のとおりである。

議 会 事 務 局 長	村 山 和 弘 君
庶 務 係 長	岡 崎 貴 子 君

開 会 午前10時30分

○委員長（垣内秋弘） 皆さん、改めておはようございます。

臨時議会に引き続きまして補正予算特別委員会を招集いたしましたところ、皆様方にはご多忙のところご出席をいただきまして、まことにありがとうございます。

本年度の補正予算特別委員会の委員長を仰せつかっております垣内でございます。大変ふなれな委員長でございますが、上林副委員長ともどもよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、上林副委員長より一言ご挨拶をお願いします。

○副委員長（上林昌三） 改めまして、おはようございます。

このたび副委員長を仰せつかりました上林です。前年度に続いて補正予算の副委員長でございます。微力でございますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

○委員長（垣内秋弘） 本日の委員会は、先ほどの会議におきまして上程され、本委員会に付託されました議案第34号、平成28年度国民健康保険特別会計（事業勘定）補正予算（第1号）につきまして、お手元に配付いたしました日程表により審査を行います。

委員長就任後初めての特別委員会開催となりますが、効率的に委員会が運営できるように努めていきたいと思っておりますので、委員各位のご理解とご協力をお願いいたします。また、本日の委員会において不適切な発言等がありました場合には、委員長において精査を行うことといたします。

なお、会議を始めます前に、今西委員より欠席の申し出があり、許可をしておりますので、このことを報告いたします。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（垣内秋弘） ありがとうございます。

ここで、町長からご挨拶をお受けしたいと思います。町長。

○町長（西谷信夫） 平成28年第1回の臨時会の本会議に引き続きまして、補正予算特別委員会を開会していただきまして、大変ご苦労さまでございます。

また、委員会において、垣内委員長、また上林副委員長には大変ご苦労をおかけいたしますが、どうぞよろしくお願ひを申し上げる次第でございます。

当委員会に先刻付託されました議案は、議案第34号、平成28年度国民健康保険特別会計（事業勘定）補正予算（第1号）の1議案でございます。後ほど説明をさせていただきますが、どうかよろしくご審議を賜りまして、ご可決いただきますようお願いを申し上げます。簡単でございますけれども、開会に当たりましてのご挨拶とさせてい

たきます。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

○委員長（垣内秋弘） ありがとうございます。

ただいまの出席委員は11名でございます。定足数に達しておりますので、直ちに本日の補正予算特別委員会を開きます。

これより議事に入ります。

日程第1、議案第34号を議題といたします。

それでは、当局の説明を求めます。町長。

○町長（西谷信夫） それでは、議案第34号についてご説明申し上げます。

議案第34号、平成28年度宇治田原町国民健康保険特別会計（事業勘定）補正予算（第1号）につきましては、平成27年度国民健康保険特別会計におきまして収支不足が生じることになりましたことから、平成28年度の予算を平成27年度の不足分に充てるため、繰上充用金の補正を行うものでございます。補正額は5,940万円を追加し、補正後の予算総額を14億6,966万1,000円とするものでございます。

詳細につきましては、後ほど担当課長のほうから説明をいたしますが、どうぞよろしくご審議を賜り、ご可決いただきますようお願いを申し上げます。以上でございます。

○委員長（垣内秋弘） 青山介護医療課長。

○介護医療課長（青山公紀） それでは、改めまして議案第34号、平成28年度宇治田原町国民健康保険特別会計（事業勘定）補正予算（第1号）ということで、ご説明させていただきます。

ただいま町長のほうからも概要説明がございましたように、平成27年度国民健康保険特別会計におきまして収支不足が生じることとなりましたので、平成28年度の予算を繰上充用させていただきたく、補正をお願いするものでございます。

まず、平成28年度宇治田原町の国民健康保険特別会計（事業勘定）補正予算（第1号）は次に定めるところによるということで、まず歳入歳出予算の補正は、第1条歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ5,940万円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ14億6,966万1,000円とするものでございます。

歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第1表歳入歳出予算補正」によるということで、次のページをごらんください。

まず、第1表歳入歳出予算補正ということで、歳入のほうからご説明させていただきますと思います。

まず、第3款国庫支出金項2国庫補助金ということで、補正前の額が5,372万7,000円、補正額としまして5,940万円ということで、この合計が1億1,312万7,000円となり、歳入合計が14億6,966万1,000円でございます。

歳出につきましては、新たに款項を設けさせていただきまして、第13款前年度繰上充用金ということで、項1前年度繰上充用金、補正前の額が0円、補正額が5,940万円ということで、計5,940万円の補正でございます。歳出合計につきましては、14億6,966万1,000円でございます。

続きまして、歳入歳出補正予算事項別明細につきましては、6ページをごらんください。

まず、歳入のほうからでございますが、昨年と同様に、第3款国庫支出金項2国庫補助金1財政調整交付金ということで、この財政調整交付金の中でも普通調整交付金の増を見込むということで、5,940万円を計上させていただいております。

続きまして、歳出でございますけれども、8ページをごらんください。

歳出につきましては、第13款前年度繰上充用金項1前年度繰上充用金目前年度繰上充用金ということで、補正額5,940万円ということで、これにつきましては、節22の補償、補填及び賠償金ということで、前年度繰上充用金5,940万円として計上させていただいております。

詳細につきましては、別紙横とじの5枚つづりの資料があると思うんですけども、それをごらんいただけますでしょうか。

まず、平成27年度国民健康保険特別会計（事業勘定）予算決算見込額概要ということでございます。

まず、決算見込み額から申し上げますと、まず1番右側の太枠の、平成28年4月28日現在で見込んでおるものでございます。ここをご参照くださいませ。

まず、歳入額からいきますと13億6,727万9,060円、歳出額につきましては14億2,673万6,303円、うち保険給付費といたしまして8億3,005万2,638円ということでございます。歳入歳出差し引きさせていただきますと、先ほど補正額で申し上げました赤字ということで、三角の5,945万7,243円ということでございます。

その下には、前年度の繰上充用額ということで、27年度から26年への充用ということで6,631万6,573円を充用させていただいております。これを差し引きさ

させていただきますと、実質27年度の見込みとしましては、685万9,330円ということで黒字ということでございます。

決算見込みの概要なんですけれども、医療費の支出状況につきましては高水準での支出が続いているということで、27年度におきましては前年度実績から約1億円強増加しているということで、過去最高となっているような状況でございます。また、平成20年度と比較すると約2億円増加しているということで、医療費は大きく伸びているような状況でございます。

しかしながら、27年度の見込みとしましては、市町村相互の拠出金により運営されている共同事業交付金において高額な医療費の発生状況が影響し、交付金が当初見込みに対して大幅に増額決定されたということや、国・府の負担金及び交付金等におきまして交付見込み額に近い額が交付されたということで、歳入額が伸びたということとなりまして、実質単年度収支は黒字となる見込みでございます。

それでは、続きまして、それぞれの詳細ということで、次ページ以降をごらんください。

まず2ページ目なんですけれども、歳入科目に係る主な特記事項ということでございます。

ここにつきましては、国民健康保険税ということで、この保険税の納付状況の精査により、現年度分の収納率を出納閉鎖期間の収入も見込んでおりまして、昨年同様程度の約95%と見込みました。また、滞納繰越分の収納率につきましては、京都地方税機構の取り組み効果によりまして、昨年度は19.6%ということでございましたけれども今年度は30%ということで、大きく収納率が増加しておりますところでございます。

ちなみに、平成27年度の調定額は約5,900万でございました。そこで、30%の入ということで、約1,700万円が収納されているような状況で、入が増加しているところでございます。

この表につきましては、平成21年度から26年度の実績と27年度の見込みということで、実績と健全化計画ということで、第1期と第2期の計画の一応数値を上げさせてもらいまして、実績と計画値の比較をさせていただいております。

ちなみに、実績との計画値ということで、27年度の見込みとしましては、現年度の収納率におきましては、計画と対照しますと0.8%減ということでございます。滞納繰越分の収納率につきましては10.51%ということで、増加しております状況でございます。

続きまして、国庫支出金と府支出金とございますけれども、まず療養給付費等負担金におきましては、2月に行った変更交付申請の後、厚生労働大臣より交付が決定されたものでございまして、申請額に対しまして決定額が約530万というようなことで、増額となっております。しかしながら、近年の傾向としましては、この変更申請額に対しまして交付額が増加傾向にありますけれども、増額交付された負担金につきましては、翌年度の実績により精算されることとなっております。この見込みが、短期間において医療費等大きな変更は見込めないことから、精算の結果、返還金が生じているというような状況でございます。ちなみに、27年度は約800万ほど返しておるような状況でございました。

続きまして、3ページなんですけれども、財政調整交付金等におきましても、国・府とも、そこそこ公費負担に近い額が交付されておまして、特に府の財政調整交付金につきましては、当初申請時1,400万余りやったんですけれども、これにつきましては3,200万ということで1,700万ぐらいの増、ここにはちょっと掲載させていただいておりませんが、そういった形で交付されておまして、入が増加しているような状況でございます。

そして、第7款の共同事業交付金につきましては、高額な医療費の発生による国保財政に与える影響を緩和するというので、市町村相互の拠出金により運用されているということで、この共同事業交付金がございます。これにつきましては、高額な医療費の発生が27年度におきましては影響しまして、交付金が拠出金を大きく上回り、交付されたということで、交付金収入見込み額が2億9,400万余りに対しまして、拠出金の見込み額が2億6,250万余りということで、3,200万ぐらいの増額、差し引きするとふえているというような状況がございます。

入につきましては、以上のような状況でございます。

続きまして、4ページ目なんですけれども、歳出科目に係る主な特記事項ということで、これにつきましては保険給付でございますけれども、診療に係る療養給付の支出見込み額は、昨年度より大きく増加する結果となりました。また、例年医療費が減少する傾向にあった1月から4月ということで、冬場の診療において、昨年度同様に減少することなく増加に転じたというようなことが、支出を押し上げているような状況でございました。

医療費が増加した原因としましては、入院とか手術の件数増加が主なものであると判断されるところでございます。悪性腫瘍とか血管障がいに加え、その他の要因の入院治

療の増加が原因と考えられます。保険給付の主なものということで、21年度から26年の実績と27の見込みということで、健全化計画との比較をさせていただいております。

ちなみに、保険給付費の総額としましては、例えば26年度の総額ですと7億2,757万3,505円ということでございますけれども、27の見込みでいきますと8億3,005万1,178円ということで、約1億1,700万ということで、医療費が、保険給付費ですね、これが伸びているような状況でございます。

あと、5ページ目なんですけれども、参考に決算額の推移ということで添付させていただいております。21年度から26年度実績と、ことしの見込みということで掲載させていただいております。

それと、ことしにつきましては、その決算年度末基金残高ということで、27年度見込みのところ、1,000万円という金額を積み立てさせていただきたいと思って、見込んでおるところでございます。これにつきましては、やはり国保会計の財政規模は本町が小さいというようなことで、高額医療の発生が1件でもあれば不安定な状況となり、赤字に直結するようなどころも出てきますので、そういう不安定さを解消させていただくということで、基金を積み立てて、急な保険の変化に対応していきたいというような状況で、1,000万ということを出で積み立てをさせていただこうとしているところでございます。

あとは、決算の推移額と保険給付の推移ということで、参考に上げさせていただいております。以上でございます。

○委員長（垣内秋弘） 説明が終わりました。

質疑のある方は、簡潔に質問をお願いいたします。

質疑のある方は挙手願います。ございませんか。稲石副議長。

○委員（稲石義一） 27年度の今の決算の状況を聞かせていただいたんですけども、一番最後のページに、第1期の健全化計画から第2期の健全化計画の2年間分の推移を表にまとめていただいておりますけれども、第1期の5カ年で累積赤字が解消にならなかったということで4,900万、もともと5,000万ほどあったやつが3,500万まで減ったんですよというような表になっておるんですけども、26年度、第2期の最初の年に3,000万ほどまた実質収支が赤になりましたので、6,600万になったということなんですけれども、第1期の反省を生かして5年間で解消するというやつが解消できなかったやつについて、今度4年間で解消して、平成

30年度の都道府県への統合に向けての対策を講じようということをしたんですけれども、この2年間の、第2期の2カ年の総括なんかは、どのように当局としては総括されているのか、まずそれをお聞きしたいと思います。

○委員長（垣内秋弘） 青山課長。

○介護医療課長（青山公紀） ただいまのご質問でございますけれども、25年度で3,300と、少し赤字が減ってきたというようなことでございましたけれども、やはりこのときには出のほうで保険給付のほうが少し下がっていたような状況というのもございました。それと、あと特定保健指導とか生活習慣病、いろんな健診にも地道ながらには努力はさせてもらったということで、減ってきたというようなこともございましたけれども、26年度につきましても、やはりその出、保険給付、医療費のほうは高額に、大幅に伸びてきたと。25年度ぐらいまでですと、大体月約5,000万ぐらいの平均でございましたけれども、26年とかになりますと、やはり6,000万に近い数字ということでございます。

ちなみに28年度、この5月、28年度1回目、1月分の医療費の請求が来たんですけれども、これにつきましては、やはり7,000万という大台に乗ってしまいました。これにつきましては、特別に1月の過誤の分が乗ったということもございましたんですけれども、それを除きましても6,000万から6,500万ぐらいの1月の医療費ということで、伸びておるような状況でございます。

だから、ちょっと急激にやっぱり伸びているということで、なかなか地道な対策、それとまた今年度、保険税の改定等をしていただきましたけれども、なかなかそれでも追いつかないというような状況で、やはり地道にあとは対処していかなくてはならないかなという思いでございます。

また、この第2期の計画で2年が過ぎたんですけれども、この2年につきましても、やはり医療費のほうに急激に伸びているというようなことで、なかなかこの次、あと残り2年ございますけれども、その中で解消していくのは厳しい状況かなというふうなことで考えておるところでございます。

○委員長（垣内秋弘） 稲石副議長。

○委員（稲石義一） 健全化計画というのは、その期間にどういう形であっても、数項目あったと思うんですけれども、徴収率の向上とか健康増進の強化とか、そういう取り組みのもとで累積赤字を解消していこうということやったんやけれども、今先ほどのやつを見ますと、徴収率の問題でも、健全化計画の目標に沿った数値に届いていないと

というようなことがありますので、こういうのは実務的な問題なんで、こういう部分は何でできないのかという話もきちっとせんなんですよね。結果論で、健全化計画の徴収率に届かなかったんですよじゃなくて、こういうのは本当に手続上の問題ですんで、この辺もしっかりと総括しとかなだめですよ。

医療費の増高については、これは見通しがどうのこうのというよりも、それぞれの住民の方々の病気の内容が重いほうにいつているというふうな報告が、これまでもございましたですけども、ただ1億円も、もともと7億台で推移しておったやつが1億円もふえるいうたら、率的にいうたらむちゃくちゃ大きいんでね。その辺が、国保の赤字財政については、全国的な構造的な問題なんですよというふうに言われてきているんですけども、これは宇治田原町の問題違うかいなと私は思っておるわけですよ、この医療費に問題についてはね。これ7億台が8億3,000万になりましたよと、過去最高の医療費になりましたよ。これ、ほっておいたら、ぐあい悪いわけですよ。

これ、前資料をもらいましたら、近畿圏内の類似団体の町村の医療費の状況を、運協に出されたやつを、前、議会でももらいましたですけども、そうしますと、宇治田原町の1人当たりの医療費の入院は、その近畿圏内の類団の中の23のうちの入院は8番目なんですよ、1人当たりね。外来が5番目なんです。ところが、1件当たりになると入院が1番になるんです。8番やったやつが1番になるのね。それで、5番目だった外来の1人当たりが1件当たりになると、23町村の中で2番目になる。だから、1件当たりが大きいというのは、全国的な構造じゃなくて宇治田原町の医療に係る特徴やというふうに思うんでね。それは、やはり何らかの原因究明をしながら、きちっと対策を講じやんとあかんのかなと。こんなびっくりするような数字が出てきよるわけだからね。

だから、その結果が27年度に過去最高の、今まで7億やったやつが8億3,000万に膨らんだ。こういうようなものは、何かの手を講じて、対策を講じないとやまらへんわけですから、いつまでたってもこの赤字赤字、累積赤字で困らんなんことになりますので、そこのところをやはり、医療と健康との関係も含めてきちっと分析して、危機意識を持ってというか、危機宣言か何かしやんなんような領域に入ってきてあると思うんで、この本町の国保の状況はね。

その辺について、医療費の分析をどういう形でやっていつて対策をどうするか、健康増進の問題、きょうも健康増進の中間見直しの冊子をもらいましたですけども、ああいったところと中長期的に対策を講じていかならんと思うんですけども、その辺の考え方はいかがでしょうか。

○委員長（垣内秋弘） 青山課長。

○介護医療課長（青山公紀） ただいまのご質問ですけれども、委員おっしゃるとおりでございまして、私どもも、やはり高額な医療とかそういう関係のところが目がいておった状況がやっぱりあったと思われまして。今おっしゃられたとおり、やっぱり1件当たりの医療費が高いということで、なかなかそのあたりに目がいていなかったところもございまして。そういったところは、やはり今後はきちっと精査していかなければならないと考えておるところでございまして。

○委員長（垣内秋弘） 稲石副議長。

○委員（稲石義一） 精査するよりも、やっぱり40歳代ぐらいの方からの成人病の対策から地道にやっていく必要があるのではないかなと、急に後期高齢ぐらいになられた年代でかなり重い重症な病気にかかれて、医療費の非常に増高にその分が影響するというようなことがないようにやっぱりやっていかないと、全国的な平均の中で突出した医療費というのがあらわれてきよるんで、宇治田原町の場合。これは早目に手を打つ必要があるというふうに思います。

それと、このことで、先ほどの資料をいただきますと、2月段階では1,800万の赤字になっています。資料の1ページにありますね。運協に値上げ云々かんぬんの議論をしてもらいはったんは1月22日ぐらいやと思うんですけども、そのときもそういう資料を出しながら収支見通しを出して、27年度が2,000万近い赤字になります、このままほっておけば28年度は3,000万円ぐらいの赤字になりますというふうに見込んで、その3,000万が2分の1は値上げで、あとの2分の1は一般会計からの繰り入れで赤字を解消しましょう、単年度としてはね。そういうことやったんやけれども、それは2,000万の赤字を、27年度を見通しての話ですわね。それが680万黒字に転じよったと。まあまあ今いろんな要因はおっしゃいましたですけども。そうしますと、その2月段階から2,500万ほど好転しておるわけですね。そのことからすれば、3,000万の28年度というのは、そこそこのところになっておるのかなと、理論的にはそういうぐあいになるんですよ。

その辺について、28年度、見込みにくいんでしょうけれども、その収支見通しとして3,000万といったやつが、どのような形で今現在は思っているのか。料金改定してもうたからね、もうそれはいかんともしがたいと思うんですけども、なおかつまだ5,900万の累積赤字がありますから。その辺について、27年度の収支見通しが2月段階と今回でそういうふうな2,500万好転したことを受けての28年度をどう

いうふうに見るとというのは、今のところはまだなかなか見込みにくいとは思いますが、その辺の見解はいかがでしょう。

○委員長（垣内秋弘） 青山課長。

○介護医療課長（青山公紀） 28年度につきましては、先ほどもちょっと申し上げましたけれども、やっぱり1月当たり7,000万ということもございました。27年度の後半、第4四半期等につきましても、やはり5,000万台の前半であったものが6,000万に近いというようなことでもございますので、1月やっぱり500万程度変わってくると、今この1,800万と600万で2,500万という状況もありますけれども、28年度につきましても、これでいくとまだ赤字は解消されないというような見込みかなと思っておるところでございます。

○委員長（垣内秋弘） 稲石副議長。

○委員（稲石義一） 前回の料金改定の折には、健全化計画についてのちょうど4年間のうちの2年間が終わりましたので、そのことについて、こういう形の赤字が膨らんでいくというような中では、再度運協のほうに、第2期の健全化計画の中間見直しをしながら、よりよい手だてができるようにというふうなご報告があったわけなんですね。その折には、議会のほうに事前にきちっとした報告をしますよというふうに約束をさせていただいているんですけれども、その辺についてはいかがでしょう。

○委員長（垣内秋弘） 青山課長。

○介護医療課長（青山公紀） 一応、この国保の運協のほうも、8月開催予定をしておるところでございます。7月に、また閉会中の委員会のほうで草案、草々案になるかわかりませんが、一応その見直したものをご提示させていただきたいと思います。

○委員長（垣内秋弘） 稲石副議長。

○委員（稲石義一） その折は、先ほども精査していきますというようなご答弁がございましたので、かなりきちっとした分析をしながら、具体的な実現可能な対策を講じるように、絵に描いた餅にならないようにきっちりやらないと、なかなか30年の統合は迎えられるにくいかなというふうに私は思っていますので、その辺も踏まえまして、きちっと現実的な具体的な対策を中間見直しの中で打ち出されるよう、これは要望としておきますので、以上で終わります。

○委員長（垣内秋弘） ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（垣内秋弘） ないようでございますので、これで質疑を終わります。

これより討論を行います。討論ございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長(垣内秋弘) ないようでございますので、これで討論を終わります。

これより議案第34号の採決に入ります。原案に賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○委員長(垣内秋弘) 挙手全員であります。よって議案第34号、平成28年度宇治田原町国民健康保険特別会計(事業勘定)補正予算(第1号)は、原案どおり可決すべきものと決しました。

以上で、今回補正予算特別委員会に付託された議案の審査を終了いたしました。

この審査の結果につきましては、補正予算特別委員会委員長名をもって委員会報告書を議長宛てに提出いたします。

この場で暫時休憩いたします。

休 憩 午前11時05分

再 開 午前11時05分

○委員長(垣内秋弘) 休憩前に引き続き委員会を開きます。

委員各位の慎重な審査を賜り、協力ありがとうございました。

これをもって補正予算特別委員会を閉会することといたします。

どうもご苦勞さまでございました。

閉 会 午前11時06分

宇治田原町議会委員会条例第26条の規定によりここに署名する。

補正予算特別委員会委員長 垣 内 秋 弘